

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022 年 11 月 16 日
- 事業名 : 富士見・八ヶ岳山麓地域の未来のまちづくり・ラボ実現プロジェクト
- 資金分配団体 : 認定特定非営利活動法人富士山クラブ（甲信地域休眠預金等活用コンソーシアム）
- 実行団体 : 特定非営利活動法人こどもの未来をかんがえる会

1 実績値

【資金支援】

| アウトプット | 指標 | 目標値 | 達成時期 | 現在の指標の達成状況 | 進捗状況 * |
|---|-------------------------------------|---|---------------|---|-----------|
| 八ヶ岳山麓地域において、地域内経済循環を考え、未来のまちづくりを考える場づくりを地域の関係者の参画により地域の拠点において継続的に開催することで、地域の関係者のネットワーク化を図り、地域内経済循環の活性化のための行動を促していく。その一環として、富士見高校と連携をし、高校生の農村集 | ワークショップの開催数 町内で様々な協同プロジェクトが立ち上がる | ワークショップの開催数：9回 （年3回程度） 協同プロジェクト数：5つ | 2024 年 3 月 | ①開催回数：10 参考）参加人数： 1) 住民主導のまちづくり（ゲスト：島根県邑南町役場の田村課長）：60人 2) リビングラボって？（太陽住建 河原勇輝さん）：20人 3) 大人のお話会（境地区御柱大総大 平出裕一さ | 1 |

| | | | | |
|---|--|--|---|--|
| <p>落での学びの場づくりを行い、高校生の参画による農村活性化の方策を検討する。リビングラボの拠点として、地域の飲食店や宿泊施設の活用に加え、遊休農地を活用した体験農園の創造など、富士見町らしさを活かしたりリビングラボを創造する。(交流の場)</p> <p>1年目：富士見リビングラボの3年後の出口を見つける</p> <p>2年目：出口に向けて少し方向性を絞りつつ、具体的に検討、検証する</p> <p>3年目：出口づくりのためのフレームワークづくり</p> | | | <p>ん)：5人</p> <p>4)リビングラボ実践編(太陽住建 河原勇輝さん)：15人</p> <p>5)薬草お灸づくりワークショップ(富士見町 石川明子さん)：5人</p> <p>6)薬草美容クリームづくりワークショップ(富士見町 石川明子さん)：15人</p> <p>7)観光まちづくり(南伊豆暮らし図鑑 伊集院一徹さん)：30人</p> <p>8)ナショナルトラストとは?(日本ナショナルトラスト協会事務局長 関さん)：20人</p> <p>9)竹林整備機の竹取物語、Bamboo マイスター講座(5回開催)：30人(延べ)</p> <p>10)農村の土地利用プランづくりと協働のまちづくり：40人</p> <p>②協同プロジェクト数：5</p> | |
|---|--|--|---|--|

| | | | | | |
|---|---------------------------------|--|---------|--|---|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・富士見高原味噌を救う会（富士見町味の会、富士見まちづくりラボ） ・バンブーマイスター講座（DEF、つくえラボ、富士見まちづくりラボ） ・富士見高校総合学習プロジェクト（富士見高校、富士見まちづくりラボ、アトリエ DEF、農業関係者） ・協同農園プロジェクト（細川農園、早川農園、富士見まちづくりラボ） ・温暖化対策 WS （富士見まちづくりラボ、信州大学農学部） | |
| 子ども・若者の居場所と創造的な学びの場づくりを継続的に開催する。また地域内の音楽、手芸等の多様な専門家等との交流を図り、子どもたちの自己肯定感を高める多様な学びを提供する場として発展させる。またこどもレストランなどの地域の社会を活性化する自立的な活動を展 | 居場所の参加人数 子どもたちの多様な学びと育ちの場の実現 | 居場所の開催数：435回（月約15回以上×12ヵ月×2ヵ年、15回以上×5ヵ月×1ヵ年） | 2024年3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度は11月から開始。月、水、木、金の週4回開催。冬休み及び春休みは一部お休み。合計67回、参加者が792人。春休み中は開催しても参加者が0であったため閉じることにした。 2022年度については 月、水、木、金の週4回開催。夏休みについては、飛行船及び富士見高原リゾートにてイベント形式にて開催。 4月から6月まで72回開催、参加したこどもの | 2 |

| | | | | | |
|---|-----------------------------------|----------------------------|-----------------------|---|----------|
| 開する。 | | | | <p>合計数 665 人。 スタッフや他団体との連携により竹プランターづくり、藍染やアート作品づくり、畑での木の实収穫体験など多様な学びの場づくりを提供。</p> | |
| <p>富士見町等八ヶ岳山麓地域において、人・もの・ことを発信するアプリを開発し、多くの商店や商品・サービスを提供している者、学びの場やワークショップなどを行っている団体や者の参画を得て、情報を発信するとともに、アプリを通じた地域内の関係者の出会いと協働を促すマッチングの場づくりを行う。また既存の EC サイトの活用、連携により地域内の流通の仕組みづくりと地域内産品、サービスの地域外利用を通じた地域内経済循環のベースを構築する。(活躍の場)</p> | <p>アプリを通じて情報発信・交流をする事業者、団体等の数</p> | <p>アプリに参加する事業者、団体数：100</p> | <p>2024 年 3 月</p> | <p>2021 年度はやつがたけの人・もの・ことを発信する「やつリンク」のアプリ開発を行った。2022 年度からアプリに参加する事業者を募り、7 月には一般公開する予定。 アプリの登録店舗数：121 (9 月 22 日現在) 既存の EC サイト(つくつく)に「八ヶ岳ステーション」の店舗を立ち上げ。</p> | <p>1</p> |

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

| |
|---|
| 1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み |
| 1.達成の見込み |
| 2.アウトカムの状況 |
| A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値 |
| 5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点 |
| 交流会はオンラインで開催するものやオフラインとオンラインの組み合わせで行った。 子供の居場所づくりについてマスクや消毒の徹底、飲食のとりやめなど、感染対策を講じることで活動の継続に努めた。 |

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

信濃毎日新聞及び長野日報に交流の場づくり、創造の場づくり、活躍の場づくり共に複数回とりあげていただいた。

2.広報制作物等

交流の場づくりのチラシ、こどもの居場所のパンフレット、フェイスブックによる活動の発信を行った。

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

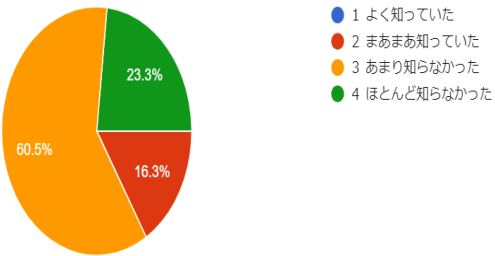
評価実施体制

| 内部／外部 | 評価担当分野 | 氏名 | 団体・役職 |
|-------|---------|--------|---------------|
| 内部 | 交流の場づくり | 中島 恵理 | こどもの未来をかんがえる会 |
| | | 牛山 基樹 | 商工会・合同会社きざし |
| | 創造の場づくり | 中島 恵理 | こどもの未来をかんがえる会 |
| | | 斎藤 眞澄 | こどもの未来をかんがえる会 |
| | 活躍の場づくり | 中島 恵理 | こどもの未来をかんがえる会 |
| | | 増村 江利子 | こどもの未来をかんがえる会 |

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

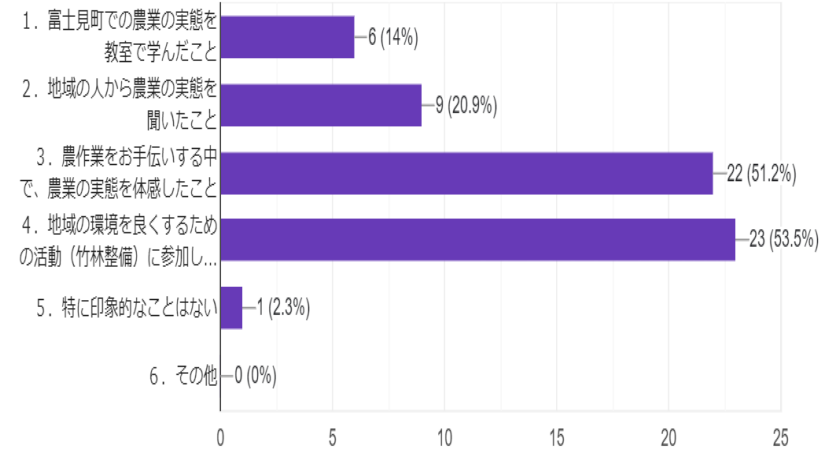
| アウトカムで捉える変化の主体 | 指標 | 目標値 | 達成時期 | これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況 |
|---|--|---|----------|--|
| 富士見町など八ヶ岳山麓地域において、農家、農業、飲食店、若者や地域住民が地域経済循環の重要性を共有し、地域内の団体が地 | 交流、連携の場づくりへの延べ参加人数 「リビングラボ」の活動により生じた社会的変化 (特に、高校生総合学習プロジェクトを | リビングラボの活動により、若者などの地域住民が地域経済循環の取り組みへの参加や活動が広がる | 2024 年3月 | 富士見まちづくりラボが中心となって、または連携団体となって、協同プロジェクトが5つ立ち上がってきた。その結果として、 <u>協同プロジェクトにおいては、地域の団体や地域住民が幅広く参加し、地域経済循環を促す活動につながっている。</u> 例えば、富士見高校生の総合学習プロジェクトは、昨年度準備を行い、今年度4月から具体的なプログラムが開始した。 富士見町の農村の課題や魅力を高校生が学び、高校生の立場で富士見町の農村の魅力を発信するとともに、若者参加による農村集落の活性化方策を検討するものである。 |

| <p>域課題を解決するために協働し、あらたなプロジェクトや活動を生み出す土壌ができる。(交流の場)</p> | <p>通じた高校生の社会参画への意識の変化、協働農園プロジェクトによる農家、非農家の考え方、取組の変化)</p> | | | <p>これまで4月、6月、9月にわたって、座学や農家の現場訪問、竹林整備及び整備した竹を活用した竹あかりづくりと竹あかりの点灯プロジェクトに取り組んだ。</p> <p>この途中段階の学生への意識の変化について 2022 年9月にアンケートを行った。アンケートの結果や授業への学生の参加の積極度の変化から、授業前には、地域の農村・農業の課題への認知度や関心は低い状態であった。</p> <p>高校生の学びが座学から、具体的な現場での聞き取り、農作業体験、竹林整備等の現場での体験を行うことを通じ、農村地域の社会問題を主体的にとらえ、者が参加への意識が芽生えていることが明らかになった。9月18日に行った富士見町における竹あかりイベントにおいては、休日の自主参加であったにもかかわらず、数多くの高校生が積極的に参加し、<u>縄文及び富士見の魅力発信のための関心や地域活動への参加の意欲が高まっていることが明らか</u>になった。</p> <p>。</p> <p>この授業を受ける前、富士見町やあなたの住んでいる地域の農業の取組や農村地域の課題を知っていましたか？</p> <p>43件の回答</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 よく知っていた</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2 まあまあ知っていた</td> <td>16.3%</td> </tr> <tr> <td>3 あまり知らなかった</td> <td>60.5%</td> </tr> <tr> <td>4 ほとんど知らなかった</td> <td>23.3%</td> </tr> </tbody> </table> | 回答 | 割合 | 1 よく知っていた | 0% | 2 まあまあ知っていた | 16.3% | 3 あまり知らなかった | 60.5% | 4 ほとんど知らなかった | 23.3% |
|---|--|--|--|---|----|----|-----------|----|-------------|-------|-------------|-------|--------------|-------|
| 回答 | 割合 | | | | | | | | | | | | | |
| 1 よく知っていた | 0% | | | | | | | | | | | | | |
| 2 まあまあ知っていた | 16.3% | | | | | | | | | | | | | |
| 3 あまり知らなかった | 60.5% | | | | | | | | | | | | | |
| 4 ほとんど知らなかった | 23.3% | | | | | | | | | | | | | |

これまでの授業で最も印象的だった（楽しかった）学びは何ですか？



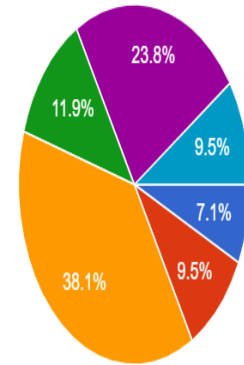
43件の回答



農業や農村地域を活性化するために重要なことは何だとおもいますか？（複数回答可）



42 件の回答

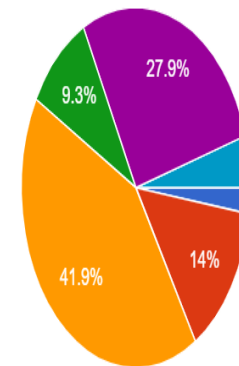


- 1. 市町村などの行政が農家に対する補助金などを出す
- 2. 企業が農業をできるように支援をする
- 3. 若い人たちが農業に携われるよう...
- 4. 若い人たちの意見や提案を行政に...
- 5. 農業をしたい移住者を呼び込む
- 6. 高校生が農村を元気にする活動に...
- 7. よくわからない
- 8. その他 ()

今後、総合学習において、どのような学びに参加してみたいですか（複数回答可）



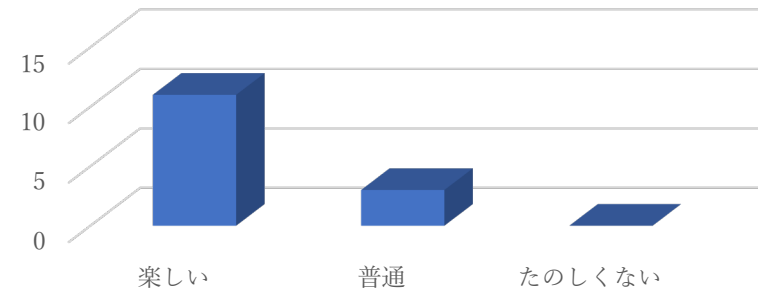
43 件の回答



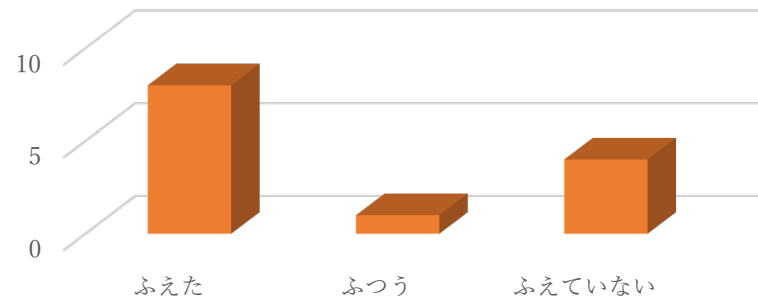
- 1. 地域の課題などを教室で学ぶこと
- 2. 地域の活性化に取り組む方の話を聞くこと
- 3. 農作業などの具体的な作業の体験
- 4. 農村の活性化など地域を元気にする方法を考えること
- 5. 竹林整備など地域の課題を解決するための活動をする
- 6. 特にしたいことはない
- 7. その他 ()

| | | | | |
|--|--|---|----------------|---|
| | | | | <p>また、協働農園プロジェクトにおいては、事業を実施する中で、「協働農園」という仕組みに対して関心を有する住民が増加した。特に複数の農地を持つ地元住民、農家等が協働農園に対する仕組みに関心をもち、来年度以降の自らの協働農園としての実施を念頭に協働農園の参加してくれた人も複数いた。</p> <p>また協働農園の参加者の提案や主催者側との連携により、新たな場所での収穫体験、協働農園の参加者が有する宿泊施設での収穫祭を開催することができた。このように単なる参加にとどまらず、主催側にまわって、より魅力的な事業にするための主体的な参加が得られ、協働農園の横展開、普及に向けたエコシステムができつつある。このような形で、今後遊休化しつつある農地の活用方策の実践として、一定の成果を得ることができた。</p> |
| <p>こども・若者たちの自己肯定感を高め、多様な学びと成長を促すとともに、地域づくりに子ども、若者が積極的に参加し、子どもたちのアイデアや夢が実現できる社会が生まれる。(創造の場)</p> | <p>子どもたちの多様な学びと育ちの実現、子供レストランなど子どもたちの地域づくりの参加を通じた子どもが真ん中のまちづくりを実現</p> | <p>居場所に来ている子供たちの自己肯定感が高まる。子供たちや地域の大人たちのつながりができる</p> | <p>2024年3月</p> | <p>ひこうせんでは、各スタッフの様々な工夫や外部団体との連携により、勉強や遊びができる居場所に加え、創造的な創作ができるワークショップなどを通じて、子供同士や地域の大人たちとのつながりを作ってきた。その結果として、<u>別紙アンケート結果や以下のアンケート結果より、「自分らしくいることができる」「ほっとできる」「ともだちがふえた」と回答した子供が多く、子供たちの自己肯定感を高めることに貢献をしている。</u></p> <p>昨年度は、高学年など様々な学年の子供たちが居場所に来ていたが、今年度は1年生をはじめとした低学年の子供たちの参加が中心になっており、経年的にこどもたちの変化を評価することが難しい状況にはある。</p> <p>一方、これまで行ったアンケートや居場所に来ている子供たちの状況の結果より、ひこうせんに来ることにより、子供たちが楽しく過ごし、友達や大人たちとのつながりを作り自己肯定感を高めることに寄与していることは明らかになっている。</p> <p>(2022年9月にひこうせんにおけるワークショップ方での子供アンケート結果より)</p> |

ひこうせんはどんな場所？



ひこうせんに来て友達やお話をする人が増えた？



また、このようなアンケートには表れていないが、ひこうせんが地域の子供たちが抱える課題についてこれまで果たしてきた役割を以下記載する。

| | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------|--|
| | | | | <p>・高学年の女子生徒がスマホの出会い系サイトを通じて見知らぬ男性と会うかどうか、若いスタッフに相談をしてくれた。当該スタッフは自ら当該女子生徒に会い系サイトで見知らぬ男性に会うことがよくないことを説明。その後、複数スタッフとの連携により、女子生徒へのサポートを行うことで、女子生徒の理解を促し、問題が生じるのを未然に防ぐことができた。</p> <p>・居場所活動の一環として、アートセラピーの創造的ワークショップを行っている。これは有料の講座として開催していたところ、参加したくても家庭の事情で参加できない子供がいることがわかった。スタッフの配慮で無料チケットを渡して、参加できるように配慮した。当該子どもと付き合いをする中で、当該子どもは、ひとり親で母親が遅くまで仕事をしていることで、さみしい想いをしていること、絵を描くことが好きで、絵を描くことで自らの気持ちを表現できることが明らかになった。スタッフで母親にも挨拶をし、飛行船の居場所のことについて理解をもらう取り組みを行うなど、課題を持つ子供たちへの支援を行うことができるようになった。</p> <p>このような子供を取り巻く環境がみえてきたため、10月後半から、ひこうせん食堂・居場所付近の店舗等で不審な行動をしている子供の情報が、付近の住民の方からひこうせんスタッフに寄せられ、当該スタッフが小学校に連絡をし、当該子供へのサポートにつながるなど、地域の子ども支援の団体として認知度が高まり、地域において一定の役割を果たすことができるようになった。</p> |
| 富士見町等八ヶ岳山麓地域において、人・もの・ことを発信するアプリを開発し、地域の活動、商品等 | アプリ開発やアプリに情報発信をする関係者間による交流・マッチングにより、地域の関係者がつながり、協働による事 | アプリや交流の場等を通じた地域経済循環活動への波及(10件以上) | 2024年3月 | <p>やつリンクを通じた地域経済循環活動が徐々に始まりつつある。</p> <p>やつリンクを2022年7月に正式リリースを行い、順調に登録店舗数も増え、登録店舗等数は121件(2022年9月22日現在)、公式ライン友達数は419名(2022年9月22日現在)となっている。多くの登録団体から新しい商品メニューやイベント情報が積極的に掲載され、地域のSDGSの取り組みを促すツールとして徐々に定着してきている。</p> |

| | | | |
|---|-------------------|--|---|
| <p>を見える化するとともに、食、農、里山等地域資源の循環による経済の活性化と八ヶ岳山麓の自然環境を通じた地域の魅力が高まる。(活躍の場)</p> | <p>業や活動が展開する。</p> | | <p>やつリンクを通じた地域経済循環の活動としては、以下のような取り組みが始まり、地域の SDGs活動を促すプラットフォームとして地域社会の取り組みに変化を促している。</p> <p>①やつリンクに登録された店舗・事業者のうち SDGs の取り組みを行っている事業者を一覧化した SDGs マップの作成、やつリンクのパーツとしてスマホアプリからリンク、これにより地域の SDGs に取り組む事業者を一覧化する仕組みづくりに貢献</p> <p>②Note に業種別の SDGS の取り組みのヒント集を作成し、やつリンクとリンク。これにより事業者の SDGs の取り組みを促す契機づくりにするとともに、Note に掲載することで、全国の事業者の SDGs の取り組みをサポートするツールとして開発。</p> <p>③SDGs クーポン発行の試行(やつリンク登録店舗において、乗り合いで店舗に行った顧客について乗り合いの人数に応じて割引率を高めることを通じて、店舗に行く CO2 削減の取り組みを促すクーポンの発行)</p> <p>④富士見町が 2022 年 7 月 16 日(土)から 11 月 13 日(日)にかけて行う町内のスタンプラリーと富士見パノラマスキー場と連携し、やつリンク公式ラインに当該スタンプラリーとのリンク、パノラマスキー場のゴンドラ1台、1台にやつリンクの紹介ボードを掲示することを通じて観光客を地域内の店舗への送客を促す取り組みを実施した。</p> <p>⑤富士見町商工会が行う10月の縄文月間イベントと連携し、栗とクルミを使った商品を提供する店舗情報を1か月間、やつリンクのタイムラインと公式ラインに発信することを通じて、町内店舗の送客を促す取り組みを実践する予定。</p> <p>⑥つくつく「八ヶ岳ステーション」を本格立ち上げ、7月より運用開始。地域内の経済循環を促すやつリンクと地域内の製品・サービスを外部に発信、販売する八ヶ岳ステーションとを使い分けて、富士見町の魅力を発信する取り組みを開始。</p> |
|---|-------------------|--|---|

| | | | | |
|--|--|---|----------------|---|
| <p>こどもの未来をかんがえる会、富士見町商工会、合同会社きざしの3団体による連携体制により地域の関係者を巻き込みながら、地域内経済循環を生み出す地域エコシステムを育む</p> | <p>3者連携による活動の広がり、効果的な連携・協働(コレクティブインパクト)による社会的インパクトのある活動の展開</p> | <p>多様なメンバー、団体の巻き込みにより全国モデルとなる地域エコシステムができあがる</p> | <p>2024年3月</p> | <p>富士見まちづくりラボの当初のメンバーに加え、各プロジェクト毎に外部の関係者をスタッフとして巻き込むとともに、協働・連携する団体、関係者は確実に増えてきている。</p> <p>農・食・里山を起点とした地域経済循環を促す、富士見高校総合学習、協働農園プロジェクト、人と森とを近づけるWS、エネルギーを起点とした地域経済循環を促す温暖化WSをそれぞれ関連づけながら、また地域の多様な関係者との連携・協働のもと進めることで、地域のSDGsに取り組むエコシステムが進みつつある。</p> |
|--|--|---|----------------|---|



① アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

| 評価小項目 | 評価小項目の評価結果 | 評価結果の考察 |
|---|---|--|
| 地域内経済循環を考え、未来のまちづくりを考える場づくりを地域の関係者の参画により地域の拠点において継続的に開催することができるか | 昨年度8回、今年度2回(さらに今年度計画中のものが4回)、地域の拠点で開催をされており、目標を大きく上回る形で継続的に開催をしている。 | 昨年度は地域経済循環やSDGsに繋がる幅広いテーマで開催をし、今年度は協働農園プロジェクトや温暖化WSなど具体的なプロジェクトと連動しながら場づくりを開催し、「学び・交流」から「実践」につながる学びとして発展してきている。 |
| こどもたちの自己肯定感を高める多様な学びを提供する場として発展させる | 子供に対するアンケート結果や 短期アウトカムの進捗状況の記載のとおり 、子供たちの自己肯定感を高める居場所づくりとして大きな役割を果たしている。 | 居場所スタッフに対してアンケートを行ったところ、約8割以上のスタッフが子供たちにとって居場所が大切なものになっていると回答している。さらに居場所スタッフにとっても、子供たちから多様なことを学ばせてもらっているとの貴重な体験が得られる場になっているとの回答があがっている。子供、居場所スタッフ双方の観点から、自己肯定感を高める多様な学びを提供する場として発展してきていると考えられる。今後は地域との連携を深め、地域の人たちからより理解を得られる場づくりを進めていくことが求められる。 |
| アプリを開発し、多くの商店、商品・サービスを提供している者、学びの場やワークショップなどを行っている団体等の参画を得て情報を発信するとともに、地域の関係者の出会いと協働を促すマッチングの場づくりを行う。 | 短期アウトカムの進捗状況の記載のとおり 、様々な地域内事業者と連携してやつリンクを活用した地域経済循環の取り組みが始まっている。 | やつリンクそのものの機能の安定化、運営体制を構築しつつ、活動の継続性を検討していくことが求められる。 |



| 事業のアウトカムの進捗評価 | 評価結果の考察 |
|---|-------------------------------------|
| <p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p> | <p>短期アウトカムは現時点において達成に着実に近づいている。</p> |

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

| 評価項目 | 評価小項目 | 評価結果 | 考察 |
|--------------------|-----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|
| 実施状況の適切性 | 実施計画に基づき、それぞれが想定したスケジュール通りに進んでいる。 | 想定したスケジュール以上の内容で進んでいる。 | 想定したスケジュールや計画以上の内容を充実しながら着実に取り組んでいる。 |
| 実施をとおした活動の改善、知見の共有 | | 定例会を開催し、活動の改善、知見の共有に努めている。 | 今後は、活動の成果の対外的発信に尽力をしていくことが重要である。 |
| 組織基盤強化・環境整備 | | 活動毎に新たな活動スタッフを募り、体制は確実に強化されている。 | 3年後の出口を見据えた継続的な組織基盤の強化を図っていくことが求められる。 |

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

2021 年度末に全体事業の見直しにより事業計画を改定した。1年目は、幅広い交流の場づくりや活躍の場づくりを手探りで行う中で、事業計画改定に基づき、2年目は、一定の成果が確実に見込めるプロジェクト体制に転換し、明確な目標と活動体制を整備することで、短期アウトカムに向かって着実に歩むことができている。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

2021 年度の活躍の場の取り組みを行う成果として「やつリンク」という地域の魅力発信アプリを立ち上げ、地域経済循環のプラットフォームの基盤として機能させることができたこと。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



| 事業の改善状況の評価結果 | 評価結果の考察 |
|---|---|
| <p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p> | <p>2021 年度末の事業計画の改定に基づき、着実に取り組みが進展している。</p> |

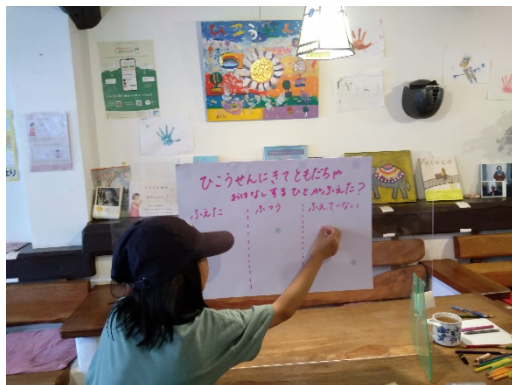
⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- ・富士見高校生の社会参画を促す富士見高校の総合学習のプログラムの発展
- ・やつリンクの体制の強化、やつリンクを活用した地域経済循環の取り組み
- ・地域内経済循環を生み出す地域エコシステムを育むための、地域の持続可能な社会づくりビジョン創出

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

（創造の場：ひこうせんでの放課後のこどもの居場所づくり）



(交流の場；富士見高校 総合学習：竹林整備と竹あかりイベントへの参加)



(交流の場：協働農園プロジェクト)

